

全新日语会话DIY教材

日语宝船

智慧袋

(日) 春原宪一郎 / 审订
春原宪一郎
(日) 中村律子
谷启子
与那霸麻孔 / 著



外语教学与研究出版社

全新日语会话DIY教材

日语宝船

智慧袋

(日) 春原宪一郎 / 审订
春原宪一郎
(日) 中村律子
谷启子
与那霸麻孔 / 著

外语教学与研究出版社
北京

出版说明

本教材是我社从日本ASK出版社引进的一套全新会话教材。该教材跟以往的日语会话书最大的不同点就是，它是通过充分调动参与者的积极性并由参与者自己完成的DIY教材。因为本书的内容需要在交流中来完成，所以更加适合在班级或小组范围内使用。在使用时学习者可以根据自己的兴趣从其中的任何一部分开始学习。

本套书分《活动集》和《智慧袋》两部分。其中，《活动集》共分50个话题，每个话题给出一个模板，后面让每个参与者按照自己的情况来完成。《智慧袋》是《活动集》的辅助篇，它对《活动集》中各部分如何进行做了详细的解说和指导，另外还对文中出现的语法现象进行了简单明了的解释。

为了方便读者的使用和学习，大家还可以上网了解与本书相关的一些信息，网址如下：
<http://www.ask-digital.co.jp/takarabune>

外语教学与研究出版社

はじめに

『にほんご宝船』は地域社会で生活しているさまざまな言語や文化背景を持つ人たちが集まって、一緒にお茶やおしゃべりをしながら、顔の見えるくゆるやかな>かかわりを築いていくための素材集です。

この本は一種のアルバムのようなもので、交流を重ねながら、各ページの空白のスペースに自分のことや一緒に活動をするパートナーに聞いた話を書き込み、世の中に二つとない本を「自分(たち)で作っていく本」(Do It Yourself「DIY」の本)です。一緒に交流活動をする人たちが一部ずつこの本を携えて、お互いに興味や関心のある話題やテーマ、活動を選んで、好きなページを広げて、取り組んでいってください。

わたしたち作成者チームは、言葉を学習するときに、何が大切か何を優先させるかということについて、教科書や先生や日本人が一方的に決めるのはやめようと思いました。それで、『にほんご宝船』では50余り集めた話題やテーマも、この『知恵袋』にある文法事項の紹介や活動のヒント、準備したらどうかなと思う小道具についても、交流する人たちが自分たちでやりたいことを決めて、選んで、進めていくことを期待します(一応、活動案というのがあります)。

また、こんなことも考えました。言葉(例えば、英語や日本語)ができないからといって、その人を「子ども扱い」するのはやめたいと。だからルビを振ったり、デス／マスで統一したり、漢字を制限したりしませんでした。「ペンキョーだ!」と肩ひじ張らずに、ごく普段着のままでおしゃべりできれば、それでいい、最高だと思います。そう、「おしゃべり」ということは、よく、くだらないことのように思われがちですが、くゆるやかな>隣人関係をつくっていくためには、欠かせない大切な営みだという考えに立っています。

最後に、この本は一人で取り組むことは想定していません。周囲の人たちと交わりながら、完成させていくことを前提としています。ただ、必ずしもボランティアグループなどでなくとも、家族やご近所の人とおしゃべりするためのネタとして使って遊んでいただいてもいいと思います。ともかく、どう使おうと、どう楽しもうと、あなたのココロひとつなのです。では、「世界にただ一つの本」作りの始まり、始まり!

春原 憲一郎

目次

応援者の方への応援歌	6
この本を使う人へ	7

活動のためのヒントの章

1 話 ひらがな	10
2 話 カタカナ	12
3 話 漢字ノート	14
4 話 わたしの名前	16
5 話 わたしはこんな人	18
6 話 わたしの家族をしょうかいします！	20
7 話 何がある？	22
8 話 趣味っておもしろい！	24
9 話 これがわたしの仕事です！	26
10話 すき・すき・大好き！	28
11話 わたしのコレクション	30
12話 旅行・旅・ドライブ	32
13話 わたしの好きなスポーツ	34
14話 好きなテレビ番組	36
15話 わたしの好きな音楽	38
16話 好きな映画	40
17話 最近、どんなことがあった？	42
18話 日本に来ていちばん.....	44
19話 今まででいちばん.....	46
20話 風邪をひいたら？	48
21話 わたしのカルテ	50
22話 料理.....おいしい食べ物！	52
23話 ニュース！ ニュース！	54
24話 今までのこと話してみよう！	56

25話 習ってみたい！ やってみたい！	58
26話 慣用句	60
27話 人もうごく・物もうごく	62
28話 一日の生活	64
29話 わたしの一年	66
30話 ファッション！ オシャレ！	68
31話 わたしのご近所	70
32話 おすすめのお店	72
33話 バリアフリー	74
34話 ふくし(年をとったら……)	76
35話 わたしのできること	78
36話 もしも……	80
37話 ちょっと一言！	82
38話 夢がいっぱい！	84
39話 べんりな電話	86
40話 子どものとき	88
41話 非常事態 !!	90
42話 インターネット	92
43話 ノンバーバル！ 身ぶり手ぶり！	94
44話 わたしの大恋愛！	96
45話 the 結婚式	98
46話 わたしの妊娠日記	100
47話 女の子・男の子	102
48話 嫁・姑	104
49話 わが家の家計簿	106
50話 イメージ・イメージ・イメージ ○○って聞くと……？	108

しっかり教えるためのヒントの章

- ・動詞のグループ分け…112 ・動詞のフォーム…113 ・自動詞／他動詞…113
- ・授受表現…114 ・～とき…115 ・活用表…116

索引	118
著者紹介	120

応援者の方への応援歌

1. 何を教えるかではなく、おしゃべりを楽しもう！
2. できるだけ耳を傾けよう！ 座みの苦しみをもって語る相手の言葉の一言一言が出てくるのを根気よく待とう！
(相手の話を先取りしないこと)
3. 自分のことを話そう！
4. 自分のことを話すとき、できるだけいろいろな品を持参しよう！
(例えば、写真、思い出の品、地図、子ども？ だんな？ などなど)
5. この本にこだわらないで…… 話が脱線するのは大歓迎！ どんどん脱線して、その日、そのときの気分で、いちばん、話したいことを話そう！
6. 記録を残そう…… 今はケータイやデジカメで簡単に写真が撮れるし、メールもできるから、それをプリントアウトして、どんどんこの本の余白に貼っていこう！
7. みんなを巻き込もう…… ペアやグループでやっている人は、まわりのペアやグループも巻き込んで、話の輪を広げよう。自分たちのおしゃべりで出た内容を周りの人たちとも共有しよう。うちに帰ってからも話そう。
8. ときには？ ときどき？ 外へ出よう！ 外には話題がいっぱい待っている。
9. 話題に関係のあるところへは、できるだけ出かけよう！
(たとえば、病院、福祉施設、結婚式場、本屋……現場に行ってみよう)
10. この本の続編を作ろう！ 51話、52話、53話……と新しい話題を見つけて、ぜひホームページに送ってほしい。そしてみんなで『にほんご宝船パートⅡ』を作ってくださいね。待ってます。

この本を使う人へ

この本は今までの日本語教科書とは違い、自分たちで作り上げていく本ですので、いくつか作成者が考えた使い方のヒントを記します。ただ、この本は基本的に交流活動のアイデアが詰まった素材集ですので、当事者のみなさんがいろいろ工夫して、その体験を持ち寄って、この本をより豊かにしていただければと思います。

1. **どこから開いて始めようと、自分たちの自由！** 今、自分たちが興味や関心のあるページから始めましょう。積み上げ式の本ではありませんから、どこから始めてもけっこうです。文法項目などでほかの話に説明がある場合は、「参照」としてありますので、その課をご覧ください。
2. **大いに書き込みをして、よごすべし！** 活動集は、できれば一人1冊持っていて、ノート代わりに、アルバムとして、記録集として、スクラップブックとして、聞いたこと、見たこと、学んだことを記入したり、写真を貼ったり、絵やイラストを描いたりしていきましょう。もちろん関心のないページは飛ばして、1冊終わると、世界にただ一つの記録集ができるという仕組みです。
3. **音読して、ルビをふっていこう！** ふつう初～中級の教科書には漢字に振り仮名が振ってあります。この本はあえて＜不親切＞にルビを振りませんでした。一般の日本語の文章になれるということよりも、読み方を聞いて、伝えて、メモして（正確に伝わったかどうか確認して）いく一連の活動のプロセスのなかで、実社会のなかで学習者が遭遇する＜漢字＞問題に取り組む練習をしていければと思います。ルビは仮名で振っても、ローマ字、アラビア文字で振っても自由です。
4. **辞書を常に携帯しよう！** 意図して、英訳や中文訳などを準備しませんでした。双方が、またはどちらかが辞書を準備して、うまく説明できない言葉や表現は、時間がかかっても辞書で調べましょう。ボランティア応援者の人にはぜひとも、交流する学習者の言語の辞書を購入して携えていってほしいと願っています。
5. **応援者は、事前に予習しておこう！**『知恵袋』で予習しておく、交流活動が楽しくなること請け合いです。様々な小道具を準備したり、辞書で言葉を調べておいたり、文法のからくりをペンキョーしておいたりして、豊かな活動をめざしてください。
6. **双方向の交流を！** どうしても力のある方が主導権を握ってしまいます。日本語教室では、たまたま日本語のできる方がいばってしまいがちです。でも、それでは＜交流＞ではなく、＜指導＞になってしまいます。できるだけ、学習者の声を引き出すとともに、応援者側が自分のことについても積極的に語り、双方の記録を活動集に残していくようにしたいものです。
7. **<にほんご宝船>ホームページがあります！** インターネットが使える人は、ぜひ宝船のお宝となるホームページ、<http://www.ask-digital.co.jp/takarabune/>にアクセスしてみてください。本に書かれている以外の沢山の関連情報や、リンク先、それから全国の『にほんご宝船』を使用している人たちが寄せてくれた活動の記録やヒント、アイデアがあります。そして、ぜひあなたもこのホームページに活動の記録を送ってください。お待ちしております。



活動のためのヒントの章



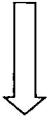
ひらがな

トピックについて

日本に来る前に、とりあえず「あいうえおだけはやってきました」という人は多いですね。この活動集を手にする人も、ひらがなはまったく初めて、という人は少ないかもしれませんが、ここではレベルに応じて50音をチェックしましょう。すでにできる人は間違えやすい音だけ復習してください。

●交流活動の例 ※学習者のレベルに合わせて調整してください。

1. 一緒に50音表を読んでみましょう。



順に読んだ後、「あ かあ さあ たあ……」と、母音と子音の関係を意識しながら読むと表の理解を助けます。非漢字圏の人は、ローマ字を併記して示すと分かりやすいでしょう。

2. ③の例を見て、①の表から同じひらがなを探してみましょう。



3. ④に進み、「自分の名前」を言いながら、50音表で確認します。このとき、1字ずつ異なる色で50音に○をしていきます(例:「は る は ら」→ 緑 黄 緑 赤)。同様に、活動集の該当欄にまず緑、黄、緑、赤の○を書き、そこに表を見ながら自分で字を入れていきます。「住んでいる場所」も同様に。



拗音や促音などの小さい文字は、必要に応じて応援者が小さいマス目を書いてください。

4. おしゃべりをしながら「駅の名前」や「友だちの名前」を出し合い、埋めていきましょう。



5. <発展活動のいくつか>

- 1) 「似てるけど違うもの探し」……50音表を見ながら「は・ほ」、「い・り」、「め・ぬ」など、形が似ているけど違うものを交替で探す。2つの字を大きく書いて、どこがどう違うかマーカーで説明する。複数でできます。
- 2) 「お・を」、「わ・は」ゲーム……語と語とつなぐ「を(o)」、「は(wa)」は、名詞の一部にはなりません。そこで「お・を」、「わ・は」が混じった文章を作って間違い探しをしたり、空欄(○)を作って入れたりします(例: おとうさんがかおをあらう／おどりをおどろう!／わにはこわい／わたしはでんわをかけます)。ペアで問題を作ってみんなに出題してもいいでしょう。ユニークな文だと盛り上がります。
- 3) 活動集の内容以外に、知っている言葉を書いてみる。
- 4) 余った時間でかるたやしりとり(順にボードに書いていく)遊びもいいでしょう。しりとりは「食べ物」や「人の名前」などテーマを決めても面白いですよ。
- 5) 「変わりビンゴA」……2人1組になる。縦横5マスずつの枠を作り、教室にあるものをひらがなで自由に入れていく(例: まど／こくばん)。埋まったらペアごとに読みあげてヒットしたら消していき、早く一列消えたペアが勝ち。＊カタカナでもできます。

●解説

身近にある新聞や雑誌を手にとって眺めてみましょう。ひらがな、漢字、カタカナ、ローマ字……どのように使われていますか。漢字圏の人は漢字を拾って読んでもだいたい意味が取れるでしょう。ひらがなだけだとよく分かりませんね。

漢字を拾えば意味が取れるように、成人が触れる日本語の文章は、名詞や活用語の語幹（活用で変わらない部分 例：「走」る）は漢字で表記されています。ひらがなはそれ以外の活用語の語尾（例：走「らない」）や助詞に使われ、漢字かな混じり文では補足的な要素が強いといえるでしょう。

活用語の語尾や助詞のほかには、代名詞（これ、それ、どれ）や副詞（およそ、ほとんど）、接続詞（しかし、すなわち）などがひらがなで書かれることが多いようです。また、全般に固い文章より、日常語のやわらかい文章の方が、音読語より訓読語の方が、かな書きになる傾向があります。

名詞は主に漢字やカタカナで書かれますが、最近は和風の店名や商品名、選挙の候補者名や子どもの名前（例：ちひろ、ゆめの、そら）など、ひらがな表記にすることで、かえて柔らかい、または新鮮なイメージを狙う場合も見かけます。字体もいろいろに工夫されていて面白いですね。いろいろな例を日頃から集めておくと楽しめます。

◆ひらがなの各音の呼び方

清音……「あ、か、さ」のように 点々が無い（音が濁らない）。

濁音……「が、ぎ、ぐ」のように 点々が付く（音が濁る）。

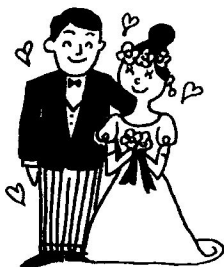
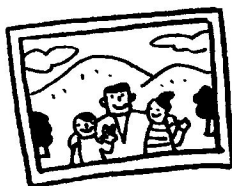
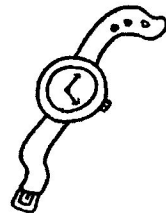
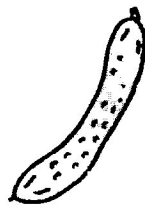
半濁音……「ば び ぶ」のように 小さいマルが付く。

長音……「おかあさん」「くうき」のように伸ばす音。

促音……「きって」「ほっさ」のように小さい「っ」。

拗音……「ちゅうしゃ」のように小さい「ゃ」「ゅ」「ょ」。

はつ音……「ん」。



準備するといひもの

12色以上の色えんぴつ 大きい50音表(カタカナ併記のもの) かるた 大きいマス目の用紙
店名がひらがなのお店のカード

カタカナ

トピックについて

外来語の発音が日本語読みになっていて、外国の人と話が通じなかったことはありませんか。例えば、AIDSを日本では「エイズ」と読みますが、同じように外来語として取り入れて「アイズ」と発音する国もあるのです。外来語の日本風発音をさらにカタカナ表記したものは、学習者にとっての悩みどころの一つ。カタカナ学習の際には原音との違いも意識しましょう。

●交流活動の例 ※学習者のレベルに合わせて調整してください。

1. 一緒に50音表を読みましょう。



ひらがなを学習した人は同じ構成だと分かるはずですが。書き方に注意するものを、同時にチェックしていきましょう。

2. ③の例を見て、表から同じカタカナを探してみましょう。



3. ④に進み、「自分の名前」を言いながら、50音表で確認します。このとき、1字ずつ異なる色で50音に○をしていきます（例：「ア　ン　ナ」→ 赤　青　黄）。同様に、活動集の該当欄にまず赤、青、黄、の○を書き、そこに表を見ながら自分で字を入れていきます。「出身地」も同様に。



拗音や促音などの小さい文字は必要に応じて応援者が小さいマス目を書いてください。学習者の母語の発音が日本語にない場合、なるべく近い音を探しましょう。

4. おしゃべりをしながら「友だちの名前」や「会社の名前」を出し合い、埋めていきましょう（会社名は知っている日本のメーカーなどでもOK）。



5. 教室や身につけているものを見回して、カタカナで書くものをどんどん言っていきましょう。それらを50音表で確認し、いくつか書いてみましょう。



6. 「街に出て～」は宿題にして、次回に発表してもらってもいいでしょう。



7. <発展活動のいくつか>

1) 「似てるけど違うもの探し」……50音表を見ながら「シ・ツ」「フ・ワ」「キ・チ」「ユ・ヨ」など、形は似ているけど違うものを交替で探す。2つの字を大きく書いてどこがどう違うかマーカーで説明して。これは「ひらがなとカタカナ」でもできます（例：り・リ、き・キ）。

2) 「カタカナで世界一周」……カタカナで表記する国名を順番にボードに書いていく。日本語の各国語名を、その都度紹介する（例：イギリス）。同じ国名はアウト。自分の番になっても国名が思い浮かばなかった人が負け（→空港の見送り役！）。負けても、ほかの人がつまづいたときに手を挙げて、書ければ復活できます。

注：レベルに差がある場合は50音表を貼って見てもいいことにしておきます。また、同じゲームが「カタカナメニュー」や「車の種類」などでも可能です。

3) 「変わりビンゴB」……2人1組になる。縦横5マスずつの枠を作り、自由にカタカナを書き入れる。そのカードをほかのグループと交換し、書かれているカタカナを頭の1文字とした単語を、別紙に書いていく。全部、早く書けたグループが勝ち。これを街に出てフィールドワーク的にやると面白いイベントになります。*ひらがなでもできます。



●解説

カタカナは主に外来語の名詞の表記に使われ、これには当然、外国の人名、地名なども含まれます。拗音など小さいひらがな表記には「ゃ、ゅ、ょ」と促音「っ」しかないのに、カタカナには加えて「ァ、ィ、ゥ、ェ、ォ」があり、これは、もともと日本語にはない音を表すためです（例：ファースト、ボディ、フォークソング）。カタカナ独特の表記として長音符号「ー」がありますが、長音を伸ばすのはひらがなと同様です。最初なかなかこの「ー」が書けない学習者がいますが、母語による影響もありますので、その都度、指を横に伸ばす“ー”のジェスチャーをし、伸ばす部分を強調して発音するなどしていくといいでしょう。

外来語とはその名のとおり、「外国から取り入れられた言葉」のことですが、これは取り入れられた時期によって表記の仕方にも特徴があります。

- (1) 近現代に取り入れられた、比較的新しい語。原音の感じが多分に残っているもの（例：フィクション、インストール）。
- (2) 日本語として十分、定着しているが、外国語に由来するのが明らかなもの（例：クラス、ラジオ）。
- (3) 取り入れられた時代が古く、すでにひらがな表記に違和感がないもの（例：てんぷら、たばこ）。

外来語としてカタカナ表記するのは（1）と（2）ですが、日本語としてなじみが深くなっている（2）は、すでにある慣用に従うことになります。取り入れられた時期が最も新しい（1）は原音に近い読み方をすることが多く、近年、人名などは特に原音を尊重する傾向があります。学習者と接するときも、アルファベットのつづりだけで判断せず、本人の母語でどう発音されているのか、きちんと確認するようにしましょう（例：ブラジルの女の子の名前 Rosane……日本風にカタカナ表記すると「ロザーネ」ですが、ポルトガル語では「ホザーニ」と発音します）。



準備するといいいもの

12色以上の色えんぴつ 50音表(カタカナ併記のもの) 大きいマス目の用紙
ファーストフードなどカタカナ表記のメニュー 世界地図 新聞

漢字ノート

トピックについて

漢字といっても、どんな漢字が必要なのか人それぞれ違いますね。子どものお便りが読みたい人もいれば、とにかく今、仕事に必要な漢字が知りたい人、毎月届く請求書が読みたい人もいるでしょう。ここでは、漢字を一から教えるのではなく、学習者が必要な漢字を楽しく紹介していきましょう。教室の中にも外にも漢字はあふれています。さあ、一緒に街に出て漢字を探してみましょう。

●交流活動の例

- ①を見ながら、「住所」、「生年月日」など漢字の読み方や意味を確認し、②に実際に書いてもらいましょう。名前や住所は何かと書く機会が多いですから、覚えておくと便利です。



実際にいろいろな申込書（例えば定期券購入の用紙、レンタル会員の入会書など）を持っていきましょう。やはり、実物の申込用紙に書いてもらうのが一番ですね。学習者がよく利用するバス停や駅の名前、住んでいるところや近くの地名なども一緒に紹介できると思います。また、ぜひ応援者も、自分の名前を漢字で紹介してください。

2. 右ページをやってみましょう。ここでは、文字どおり分かっていないと危険なこと、またはトラブルの原因になるもの、またよく見かける表示などを紹介します。

③注意！

まず、「危」や「禁」の漢字に○をつけましょう。そしてどんな意味があるのか、イラストをヒントに、「車はだめ」とか「車を止めてはいけません」などいろいろな表現で言ってもらいましょう。そして、実際にどんなところでこの漢字を見かけるか、話したり、一緒に街へ探しにいたりしてもいいですね（「危」や「禁」は洗剤の容器や電化製品にも書かれていますね）。

④ゴミの日？

ゴミの収集日は地域によって違うし、分別の仕方もどんどん細くなってきたので、慣れるまでちょっと大変ですね。でも知らないとトラブルの原因になることもあるので、最低限の漢字だけは確認しておきましょう。ここでは日～土の曜日の読み方や「燃える／燃えない」の漢字などを紹介しておきましょう。そして、いつどのゴミを出すのか、カレンダーに○△□の印をつけましょう。その地域のゴミ収集日の案内を持っていくと便利です。余裕があれば、ほかの漢字（資源、不燃、粗大など）を紹介してもいいですね。

⑤いろんなひょうじ

1～4の漢字がどこで使われているのかイラストから探してもらいましょう。これらの表示は、今、クラスを行っているところにもあると思いますので、実際に見てみましょう。また建物内を歩きながら、いろいろな表示（消化器、男女、入口など）も探してみましょう。

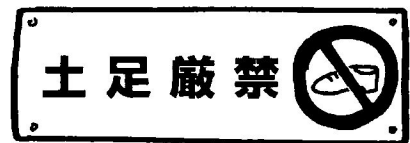
3. <発展活動のいくつか>

- 1) 「漢字ノート」を作ってみましょう。毎日の生活の中で読めなくて困った漢字や、知りたい漢字などがあったら、忘れないようにノートにメモしてもらいましょう。もちろん写真や実物（請求書やお知らせ、商品ラベル、レシート、薬袋など）をノートに貼ってもらってもいいですね。このノートをクラスに持ってきて、応援者と一緒に漢字の読み方や意味を確認しましょう。いつの間にか自分だけの便利な「漢字ノート」が出来上がります。

- 2) 「町の便利漢字地図」を作成しましょう。カメラをもって外に出てもらい、学習者の興味がある漢字を撮ってきてもらいます。みんなが集めてきた漢字(写真や実物やイラスト)をどんどん大きな紙に貼っていきます。集める漢字は、それぞれが興味のあるものでもいいし、グループに分かれてテーマを決めて集めてきてもいいし、いろいろなやり方で楽しんでください。貼るスペースが足りなくなったら、どんどん紙を足していきましょう。いつの間にか便利なクラスオリジナルの漢字地図が出来上がるでしょう。例えば、大きなテーマでスーパー、レストラン、駅、役所、学校、いろいろな表示などに分けてもいいですし、「スーパー」というテーマでも、もう少し詳しくレシート、ちらし、食品名、成分表示(脂肪……)など、学習者が知りたいと思うものなら何でもできますね。



- 3) 漢字の「仲間探し」をしてみよう。例えば、「安」という漢字をたくさん探してみてください。そしてどんな意味があるのか話してみよう。「安心」、「大安売り」、「安全」などを見つけたら、「何となく良いことだなあ」ということが分かるかもしれませんね。ほかにも「不」、「料」、「金」、「大」、「小」などで遊んでみてください。



準備するといのもの

申込用紙関係 役所の書類関係 チラシなど(漢字の書かれたものなら何でもいいですね)
簡単な漢字の辞書や日本語教育の漢字学習テキスト 漢字入りの絵カードなど